

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
21HS1BL7	歴史学	1年	後期	講義	2	江田 郁夫
授業概要 「伝記のみが真の歴史である」。イギリスの著名な歴史家カーライル（1795～1881）がのこした言葉です。伝記とは、個人の一生の出来事をまとめたもので、それだけが「真の歴史である」とは一体どういうことでしょうか？そこで今回は、日本の室町時代を生きた一人の武将、足利持氏（1398～1439）の生涯をつうじて、その言葉のもつ意味を考えてみたいと思います。現代社会を生きる私たちにとって、歴史とは？						
到達目標(学習の成果) 1. 歴史上の転換点を基礎知識として身につける。 2. 歴史をつうじて、人間尊重の精神と豊かな人間性を身につける。						
授業計画						
回	表題	学習内容				
1回	日本史と大河ドラマ	「麒麟がくる」と明智光秀、「鎌倉殿の13人」と北条義時、「太平記」と足利尊氏、それぞれの時代と内容を理解する。				
2回	地味な室町時代と足利将軍家1	鎌倉幕府と室町幕府、幕府と征夷大将軍、足利尊氏と栃木県足利市との関連性について学ぶ。				
3回	地味な室町時代と足利将軍家2	ふたつに分かれた天皇家、京都と鎌倉で幕府はどこに、3代将軍足利義満と「花の御所」京都室町第、それぞれの理由を考える。				
4回	地味な室町時代と足利将軍家3	京都の繁栄と日明貿易、北山文化と東山文化、アニメ「一休さん」と禅僧一休宗純の関連性と相違点を学ぶ。				
5回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌倉公方足利氏1	鎌倉幕府と鎌倉府のちがいを、再興された鎌倉と鎌倉に集うひとびと、それらと関連する鎌倉の史跡について学ぶ。				
6回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌倉公方足利氏2	鎌倉公方足利氏とは、鎌倉府と関東・東北地方との関係は、それらと関連する鎌倉の史跡について学ぶ。				
7回	もうひとつの幕府、鎌倉府と鎌倉公方足利氏3	鎌倉公方に従った武士たち、栃木の武士宇都宮・小山氏らの反乱、それらと関連する栃木の史跡について学ぶ。				
8回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯1	父の早世で12歳で4代目公方になった持氏、持氏の新政権を主導したのは誰かについて考え、それらと関連する鎌倉の史跡について学ぶ。				
9回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯2	持氏の自立と補佐役上杉禅秀の反乱、持氏の鎌倉脱出と復帰について学び、鎌倉の重要性を理解する。				
10回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯3	持氏政権の本格始動、禅秀の反乱の余波がつづく関東・東北地方、それらと関連する栃木の史跡について学ぶ。				
11回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯4	持氏の北関東出陣と室町幕府との対立、風雲急を告げる那須地方、それらと関連する栃木の史跡について学ぶ。				
12回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯5	幕府将軍足利義教の登場と持氏、活発化する持氏の活動と幕府の思惑、それらと関連する栃木の史跡について学ぶ。				
13回	4代鎌倉公方足利持氏の生涯6	持氏と補佐役上杉憲実との対立、室町幕府との対立のすえの持氏の自害、それらと関連する鎌倉の史跡について学ぶ。				

14回	室町時代と現代社会 1	享徳の乱・応仁の乱と室町幕府の衰退、茶の湯、水墨画、能・狂言、連歌などの流行について学ぶ。
15回	室町時代と現代社会 2	ヒーロー不在の室町時代、大衆社会といわれる現代の原点？地方の時代のはじまり？などの観点から現代社会を考える。

準備学習(予習・復習について)

1. 毎授業時に配付するプリントをよく読んで、不明な点は調べ、次授業で行う質問に答えられるようにしてください。
2. 授業中に紹介した参考文献を興味のある人はぜひ読んでみてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 学ぶ姿勢ができています。 2. 日本史上の転換点として室町時代の特徴が理解できています。 3. 歴史における個人の役割と社会との関係性が理解できています。	完全でない しほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。	到達目標を達成していない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	69点以上	59点以下

- ・ 定期試験 (筆記試験) 70%
- ・ 授業内課題 (毎回) 30%

教科書

図説日本史通覧 (帝国書院、2022年度)

参考書等

適宜、講義中に紹介します。

履修上の注意・学習支援

授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

オフィスアワー

授業後にも質問に対応する。その他、疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約 (i.eda@ujc.ac.jp) の上、時間を設定する。具体的な時間は追って掲示する。

実務経験の概要

県立高等学校地歴科教諭として17年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として6年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として12年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性についての知見を深めることができた。

[実務経験と授業科目との関連性]

上記の教員経験や博物館での経験、とくに高校での進路・生活指導経験をいかして、より具体的でわかりやすい講義を行うことができる。